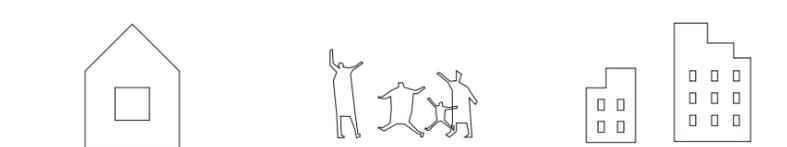


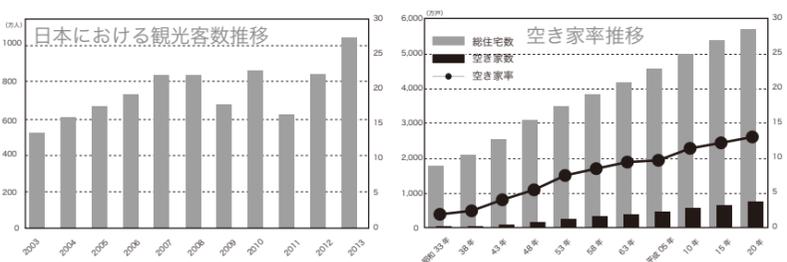
01. 背景 衰退する地方都市におけるショートステイの可能性



INCREASE INCREASE SHOTAGE

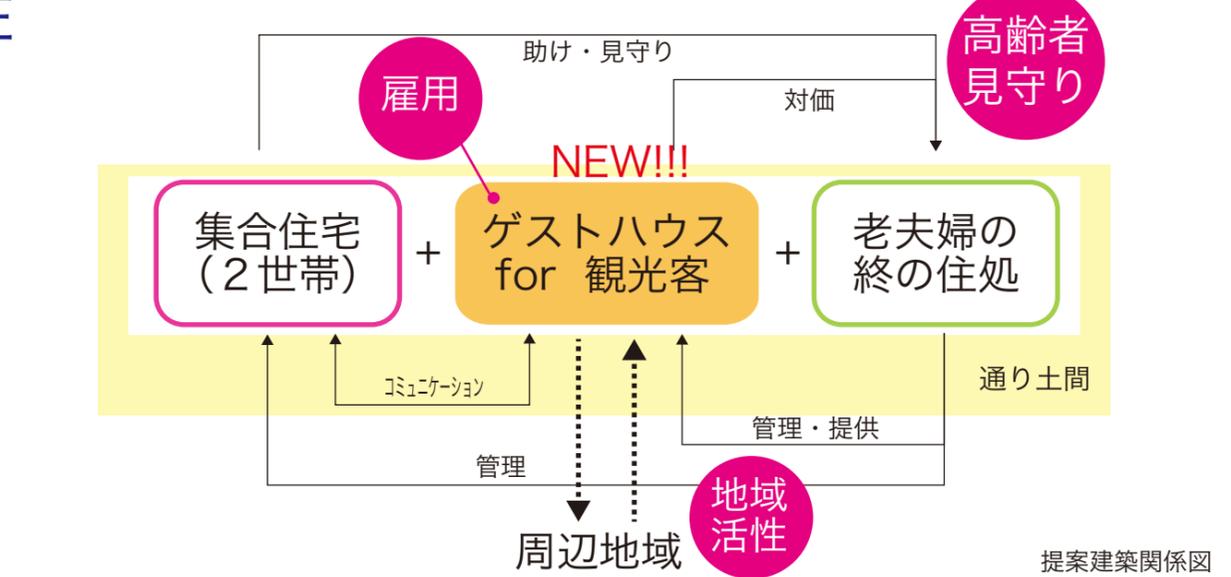
人口減による都市ストック 国外から訪れる観光客数 観光客用宿泊施設数

縮小社会の中で減少する住宅需要と、増加する観光需要
日本の空き家は人口減少によって年々増加していく。人口の絶対数が減るため、ただ人口を呼び戻そうとしても限界があるのではないか。そこで、居住人口ではなく、**短期人口**を受け入れる為の施設をつくる。日本は観光立国へ向け動いている。外国人観光客にとって、名所を廻るだけでなく、日本の生活を体験し、ひとと関わることが観光資源として魅力あるものとなっている。空き家に**ショートステイ**を受け入れることで可能性を開かせる。

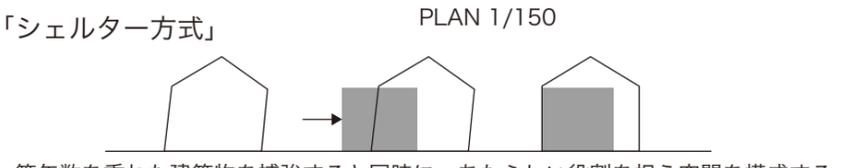


02. 提案 集合住宅+ゲストハウスが地方都市に「ひと」と「資本」の循環をつくりだす

ゲストハウスを短期賃貸物件として捉え直す
老夫婦の終の住処と集合住宅の条件に、短期賃貸物件として「**ゲストハウス**」をプログラムに組み込む。この3つのプログラムは通り土間を介して関わりを持つ。老夫婦が集合住宅を管理することで、集合住宅の住民がこの**老夫婦を見守る関係**を築くことができる。また、ゲストハウスを運営するにあたり、対価が支払われ、この地域に**雇用**が生まれる。ここで宿泊した人が地域にでていくことで、まちにも「ひと」と「資本」の循環が生まれはじめる。



03. 構法 木造建築物の補強と空間構成を担保する壁の挿入



築年数を重ねた建築物を補強すると同時に、あたらしい役割を担う空間を構成する
多層的空間をつくりだす CUBE の挿入
プログラムの境界を溶け合わせることで、独立しつつも、関係をもつ空間を「ズレ」の操作によって創り出す。壁を挿入するだけの単純な構法によって、工期とコストを抑え、汎用性のある設計手法とする。

